

若い人へのアプローチ―運動家としての立場から

2010.11.6

岡山県労働者学習協会 長久啓太

ブログ「勉客商売」 <http://benkaku.typepad.jp/blog/>

はじめに：私と学習運動との出会い、これまで

一。岡山県労働者学習協会（学習協）の活動について

1. その歴史

◇1963年に創設された岡山県学習協（資料「プロジェクトG」参照）

＊若い世代に、運動の歴史、先輩たちの歩みを知らせることの大切さ

2. その立場

「この会は、県下の労働者をはじめ勤労者の階級的自覚の形成と発展、その理論的思想的水準の向上に寄与するために、科学的社会主義の立場に立って、哲学・経済学・労働運動をはじめ人民運動についての基礎的理論、内外の政治・経済情勢の特徴などを教育・普及することを目的とする」（岡山県学習協会則第2条）

「この会は、前条の目的を達成するために次の事業を行なう。

1. 「学習の友」の普及・とりつぎの活動。
 2. 労働組合・民主団体・学習サークルへの講師派遣と斡旋。
 3. 勤労者通信大学の受講生募集と援助。
 4. 各種講座・学習集会などの開催。
 5. その他必要事項。
- 」（岡山県学習協会則第3条）

◇別の角度から言えば、「仲間とともに、学んでたたかう生き方」を選ぶ労働者・青年を増やしていく活動。人育てのプロフェッショナル（をめざす）。

3. 長久の立ち位置

◇日々の活動の強い問題意識

＊岡山の労働運動、民主的な運動全体の力をどう強めていくか。底上げ。それにどう寄与できるか。とくに、学習教育活動の土壌をどう耕すか。

＊その運動の中心を担う活動家（とくに若い世代）をどうつくるか。

◇専従者（私）は、その組織者であると同時に、先導者（扇動者）でもある。

＊長久は、運動家・組織者として、日々ものを考え、学んでいる。

＊自分自身が学びを深めるとともに、それを「どう伝えるか」。

＊どう若い世代のなかで学ぶ活動を定着させるか。

◇以上のような問題意識を強く持ちながら、模索と実践を行なっている。

二。若い人へのアプローチ（日々の実践）

1. 岡山労働学校の経験から

◇岡山県学習協会報『明日の考察』No. 312号参照

◇カリキュラムの工夫と模索について

＊ここ2年間の教室内容について

◇運営委員会の強化のためのささやかな実践

＊「生活綴方教育」の実践から学んで

＊高い要求と、あたたかい指導の統一

＊「書きあうこと」による「高まりあい」を運動文化にしていく。

2. 月刊誌『学習の友』への連載での工夫

◇「ものの見方と人間らしさ」（2008年5月号～8月号）

①サラバ、決めつけ・先入観—ものの見方の出発点

②変化にきづく力—人間らしい感性をきたえる

③木を見て、森を見失わず—対象の全体像への接近

④初心を大切に—あたり前の人間らしさを土台に

◇「ドラマがいっぱい！—ものの見方と日常活動」（2009年3月号～6月号）

①私たちは成長できる！—可能性に線を引かない

②ねばり強い努力の大切さ—変化の法則性

③苦しさのなかから生まれるもの—強い根をはる

④いつもいいこと探し—発展における否定と肯定

◇「あたりまえ、の内にいるもの—つながりをみつけて」（10年9月号～11年2月号）

①携帯電話の内にいる“つながり”

②通勤する、ということ

③「住む」ことの意味と役割

④賃金をめぐっての逆転現象

⑤時間のなかで生きている

⑥あたりまえ、の内にいるもの

≪「あたりまえ連載」のコンセプト≫

「あくまでコペル君のごく身近にころがっている、ありふれた事物の観察とその経験から出発し、『ありふれた』ように見えることが、いかにありふれた見聞の次元に属さない、複雑な社会関係とその法則の具象化であるか、ということを一歩一歩と十四才の少年に得心させてゆく」

（『君たちはどう生きるかをめぐる回想』丸山真男、より）

3. 講師活動

◇言葉に注意する、身近に感じる「たとえ」を豊富に。

◇視角での理解も。写真やイラスト。

◇心ゆさぶる話—人間を語る。相手のなかに「ゆらぎ」をおこさせる。

三。唯物論と弁証法の伝え方の模索（講義レジュメの例）

唯物論の講義レジュメ例

1. 世界観とは

◇世界観とは一自然、社会、人間についての、まとまった「ものの見方・考え方」

◇科学的な世界観

＊科学的とは、「正しい」とか「正しくない」とかいうことではない

＊ものごとの「ありのままの事実」から出発すること。そして、そのなかにある法則性をみつけてゆくこと。その法則にそって、現実に関与すること。

2. 「ありのままに見る」ことの難しさー自分・他人・社会…

◇人間の認識の過程で生まれる「決めつけ・先入観・思い込み」

＊意識の能動性（思い込み・決めつけ）

＊体験・経験の絶対化→「以前こうだったから、またこうだろう」

＊「なぜ?」「どうして」「もっとよく考えてみよう」とあれこれ努力するより、「どうせこうだろう」と思うほうがラクチン。「ゆとり」がない時には特に注意。

＊「先入観という便利なメガネ」（臨床心理士・土屋由美さんー資料参照）

＊「決めつけ」「先入観」の悪い例ー血液型性格判断

◇事実をつかむためには努力（時間や労力）が必要

＊そして、事実から遠ざけようとする人たちによって、私たちの無知は利用される

3. 事実から出発するものの見方を、「唯物論」という

◇2つの世界観

＊物質を根源的なものとする立場＝唯物論

＊意識（精神）を根源的なものとする立場＝観念論

＊物質と精神、どちらが「大切か」ではなく、どちらが「もとのもの（根源）」か、という問題。

【物質とは】私たちの意識とは独立に存在し、私たちの感覚の源をなし、感覚を手がかりとして、認識できるもののこと

【意識とは】物質である脳の働き。意識の内容は、外の世界の反映。

唯物論はものごとの本質をつかむ力をもつ。しかし簡単ではない。

弁証法の講義レジュメ例

1. ものごとを運動・変化・発展のなかでとらえる（ものさし＝世界観）

◇対象の「あり方」をどうとらえるかで、関わり・実践が変わってくる

＊自分、家族、他人、職場、運動組織、地域、社会、政治…

◇「どうせ」という時、私たちはどんなものの見方になっているか

◇対象となる現実とは、つねに新しい要素をくわえながら、変化している

＊あるものが「ある（いる）」ということは、そのものがそのものでありながら、同時に変化している過程の姿である、ということ。

2. 対象を「つながり（連関）」のなかで把握する

◇どんなものも、「つながり（連関）」のなかで存在する

＊あるものが「ある（いる）」ということは、その存在の質を規定したり、その存在を支えたり、影響を与えている「他のもの」があるということ。

＊職場や政治や社会、あるいは組織や運動を考える場合にも「縦軸」「横軸」など、「連関」をつうじて「現局面」をつかむことが大事。

3. 変化の法則性をつかむ（カテゴリー＜概念＞への理解が重要）

◇矛盾が発展の原動力

＊ものごとの中には、つねにその内部に相反する要素や傾向がある（対立物の統一と闘争）。そのぶつかりあいこそが変化・発展の原動力となる。

◇量的変化と質的变化

＊量と質は必ず結びついて存在する。量的変化なしに、質的变化は起きない。

◇肯定をふくんだ否定

＊「○か×か」「黒か白か」ではなく。「中途半端さ」を受容する力。

4. まとめ…「一筋縄ではいかない現実をとらえる、一筋縄ではない思考方法」

◇世界のゆたかなあり方、その弁証法的な姿をとらえる

「ヘーゲルの弁証法哲学は、現実の…ドラマを意識的につかみだし、定式化したものであった」（『人間の未来への哲学』高田求、青木書店、1977年）

《自分の成長の可能性について一体験的試論》

1. 自分のなかに「大きな矛盾」をつくる

◇「こうありたい自分」と「いまの自分」とのぶつかりあい

＊2つの方法がある（相互に関連している）

①「めあて」になる人をつくる

②「自分づくり」の「できるだけ高い目標」と「そのための計画」をつくる

＊自分を高めるための「無理」をすることは、現状の肯定的否定の「エネルギー」

＊原動力は、「こんな自分が」の喜びとともに、他者の力になれる「役にたつ自分」

「ストレスこそ、子供を青年にし、青年を大人に成長させる糧であるはずである。ストレスを1つ1つ乗り越えることが、『人間』の発達なのである。ストレスは元来、避けるべき対象ではなく、乗り越えるべき対象なのである。一切のストレスを回避すれば、それは楽であろうが、その人は成長もまたあきらめることになるのである。ストレスは別の方向からみれば『他人からの期待』であり、『他からの評価を落としたくない矜持（きょうじ）』であり『自分の生き方をつらぬきたい意志』であるから、当然、痛み、苦しみを伴うのである」

（中沢正夫『ストレス「善玉」論』岩波現代文庫）

◇創造的自分づくりー「捨て去りつつ、つけくわえる」の連続

＊過去より受けついだもののなかから、否定すべきところは捨て去る

＊現時点で獲得できる新しい要素を貪欲に吸収して、あらためて全体を再構成してゆく。

2. どんどん失敗するー成長の弁証法

◇絶対に失敗しない方法ー何もしないこと

◇「実践」「行動」「挑戦」するから「失敗」する

＊できるだけ失敗しないようにしたいが、それでも失敗はつきもの

＊失敗から学ぶことこそ、科学的態度

3. コツコツなければ飛躍なしー成長はつねにジグザグと進む

◇成長への量的努力（積み重ね・積み上げ）ーコツコツのなかにも喜びを

4. 「自分をゆたかにする他者」にかこまれる

◇自分ひとりだけでは、自分をつくれない

＊他者を通して自分をつくる

◇自分の現状を否定してくれる人の存在

＊弁証法的「ダメだし」をしてくれる人は貴重

◇すばらしい「他者」との無限の出会いー読書の効用

＊時間、空間をこえて、無限の出会いを生み、「自分づくり」あるいは「つくりなおし」の高い栄養源となる。

5. 自分を成長させてくれる「時間」と「場」を自らづくりだす

◇時間の「たづな」をにぎる（時間にふりまわされるのではなく）

＊高い目標こそが、時間の主体者になるカギ

◇自分と他者との関係をつくる「場」をつくりだす

＊偶然のチャンスを逃さない感度のよいアンテナも必要

◇「離れる」「休む」に習熟することも、長続きのコツ

6. 自分の可能性に枠をはめないー変化の過程としての「現瞬間の自分」

◇「今の自分」の枠の中で、「これからの自分」を固定的に考えるのではなく

以上のことは、「組織」についてもほぼあてはまります。

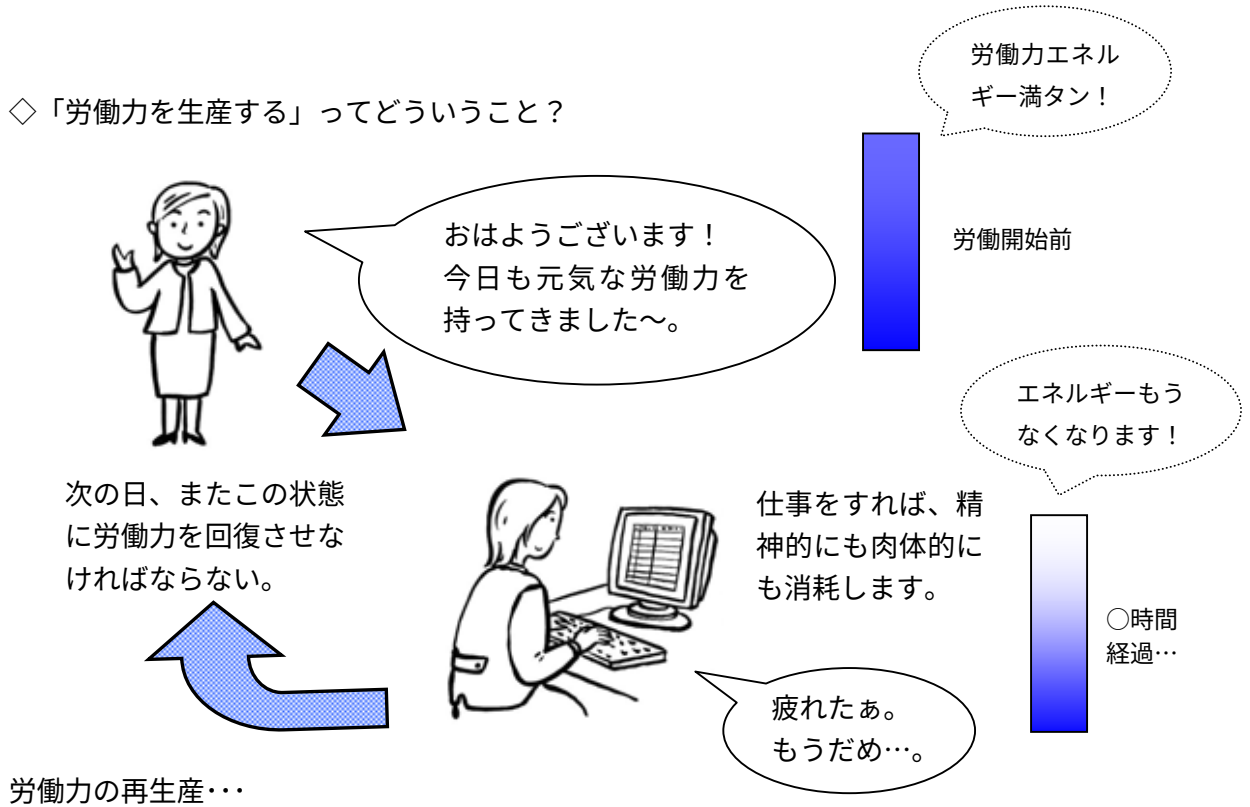
報告レジュメは以上です。

三。賃金の大きさはどう決まるか

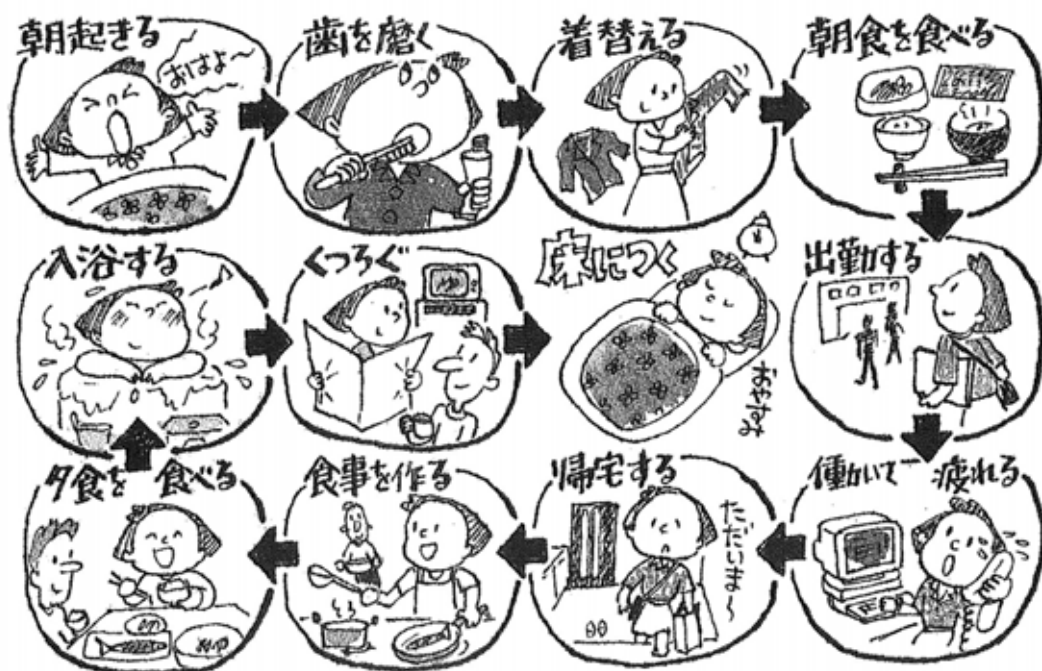
1。労働力も商品。私たちは、その商品売り続けなければ、生きていけない。

◇したがって、労働力の再生産が必要。

◇「労働力を生産する」ってどういうこと？



そのために必要な費用は… How much !?



2. 労働力の価値の3つの要素

- ①労働力の所有者である労働者本人の生活費。
- ②家族の生活費。養育費。
- ③知識・技能・熟練に必要な養成費。



- ◇「どれだけ働いたか」「どれだけ成果があがったか」は、賃金とはリンクしない
 - *賃金は、本来は「前払い」が正しい（月初め）
 - *しかし、現実の賃金体系や、現象面により、「どれだけ働いたか」が賃金に反映すると、多くの人が思っている。賃金の本質は、社会科学を勉強しなければ見えない。

3. 賃金の決まり方

- ◇生計費原則を基礎としつつも、労使の力関係で最終的には決まる
 - *資本は、できるだけ肥え太ろうとするから、賃金抑制をめざす

「もうけなきゃ
競争に負けるんだ」



「まともな賃金じゃないと
暮らせないよ」

- *個別企業での労使の力関係（労働者のいちばんの“力”は、数が多いこと）
- *社会全体での労働者側と経営者側の力関係（春闘、最低賃金など）
岡山県の最低賃金は何円でしょうか（時給 円）
- *雇用形態での差別や男女間賃金格差も

- ◇また、社会保障や年金などの水準も、生活費（賃金）と深い関わりがある
 - *医療費（↑）、介護保険料（↑）、年金掛け金（↑）…
 - *原油高、物価上昇で生活はますます逼迫（ひっばく）
 - *民主党政権は消費税アップ政策。実質賃下げに…！

…つまり、社会的・政治的な政策も、私たちの生活に大きな関わりが。だから、労働組合は、職場のなかだけでたたかっていても、展望はひらけてきません。



資料

こんな話できます ～長久講義メニュー表～

岡山県労働者学習協会 長久啓太

09.9.12 作成

【科学的社会主義の理論】

- ◇科学的社会主義とは（全体像）
- ◇哲学・世界観（ものの見方・考え方）
 - 「なぜ世界観の学習が大切か」「科学的なものの見方とは」「唯物論・弁証法」
 - 「社会とはなにか」「社会発展の法則性」
- ◇経済学
 - 「資本主義社会とは」「お金とは」「賃金・搾取とは」「労働時間とは」
 - 「ルールある経済社会」「税金の集め方・使い方」「未来社会論」
- ◇階級闘争論・社会発展論
 - 「労働者とは」「労働組合とは」「労働者の権利」「ときどきの情勢の課題」「政治とは」
- ◇科学的社会主義の古典解説
 - 「古典学習のすすめ」「資本論」「空想から科学へ」「フォイエルバッハ論」
 - 「共産党宣言」「賃金・価格・および利潤」「イギリスにおける労働者階級の状態」

【働くこと・学ぶこと・生きること】

- 「働くことの意味」「自分の考えをもつということ」「人間にとって学習とは」
- 「社会的に生きるとは」「豊かさとは何か」

【戦争と平和の問題】

- 「日本国憲法（全体像、人権条項、制定過程、9条、24条、25条）」
- 「戦争は命をどう扱うか」「安保条約とは」「基地問題」「靖国神社とは」「核兵器廃絶」
- 「広島・被爆の実相」「長崎・被爆の実相」「被爆者の心の傷」「医療と戦争」
- 「沖縄戦」「日本の侵略戦争の全体像」「日本軍『慰安婦』問題」「阿波根昌鴻の平和思想」

【その他】

- 「社会進歩と女性」「男女平等の課題、ジェンダー問題」「チラシ・ニュースのつくり方」
- 「マルクス・エンゲルスの青年時代」「社会保障とは」「ここがヘンだよ日本の選挙」
- 「ナイチンゲールの看護論、生き方」「人間の手について」「人間の言葉について」

【運動論・組織論・活動家論】

- 「運動とはそもそも」「活動家（リーダー）とはどんな人か」「生き活きとした組織活動」
- 「運動のなかで学習をどう位置づけるか」「サイエンスとアート」「会議のもち方・運営」
- 「時間の使い方」「機関紙の役割」「学習運動とは」

20分程度のミニ学習会から、1時間コース、1時間半コース、2時間コース、3時間コース、8時間耐久コースまで、よりどりみどり、参加者の意欲と構えに応じて取りそろえております。講義の内容も、専門的な深い話から、初めてその学習内容にふれるような方まで、参加層にあわせて準備できます☆ 少人数でもOK。お気軽にご相談ください。